

YMCA News



新年あけましておめでとうございます



瓢箪(ひょうたん)から駒



盛岡YMCAに集う関係者の皆さま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

2020年は、新型コロナが猛威を振るい、盛岡YMCAにおいても関連する多くの会合やプログラムが中止に追い込まれる事態となりました。とりわけ、キャンプやスポーツ、交流会等のプログラムを楽しみにしていた子どもたちや学生リーダーたちにとって、その喪失感はいかばかりであったでしょうか。日常生活においても、身をすばめて過ごす自粛と孤立の1年となったに違いありません。しかし、このような異常な経験は、私たちにとって全く意味のないものだったのでしょうか。私は、決してそのようには思いません。「ひょうたんから駒」という言葉がありますが、歴史には、得てして人間の思惑を超えた意外な展開が起こり得ることがあるからです。

歴史を振り返ると、多くの人々にとって苦難の時期でしかなかった時代の中に未来に開花する種子が胚胎されていたという例が枚挙にいとまありません。たとえば、奴隷としてアメリカに連れ込まれた多くのアフリカ黒人は、当初、抑圧と懐柔の手段としてキリスト教を伝えられ、忍従を強いられていましたが、その中から自らの解放を求める自覚的な思潮があらわれ、キング牧師らによる公民権運動、そして近年におけるオバマ大統領、ハリス副大統領の選出へ

とつながりました。また、現在の男女共同参画も源流をたどると、かつて政治や経済の表舞台に立つことを許されなかった婦人らによる廃娼や救貧等、女性に許された「奉仕的な領域」での地道な取り組みにあり、やがて、これらが女性の人権や参政権、さらにはフェミニズム思想を生み出し、世界の潮流となった経緯があります。

ここで大切なことは、人種差別においても女性差別においても、その解放の歴史を担ったのがリーダー役を担った著名人だけではなく、無数の名もなき民であったということです。

さて、ポストコロナの時代、一体歴史はどのような方向に向かうのでしょうか。わたしたちは、いつまでも新型コロナの敗残者、被害者として、歴史の流れに後ろ向きな態度をとるわけにはいきません。願わくば、現在の闇の世界に胚胎されている希望の種子を見出し、育てる側に立って、名もなき一市民として歴史に足跡を刻んでいきたいものです。今年が良い年であることを願います。



理事長 魚住 英昭

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深めます。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

11月1日よりご協力をお願いしております国際協力募金ですが、皆様の温かいご支援のもと、たくさんの募金が集まっております。2020年度はコロナウィルスの影響で、例年実施してきた街頭募金は、安全を考慮し中止とさせて頂きましたが、様々な形で募金活動にご協力頂き、心より感謝申し上げます。

今年度は新たに、LiRiO(盛岡大通商店街)、モリオカトレーニングクラブ、MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校、学校法人スコール高等学校の敷地内にあるレストラン「パタタ」に、募金箱の設置とポスターの掲示をいただいております。また、肴町商店街にも12月末まで募金箱の設置を頂きました。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。募金箱の設置期間は2月28日までとなっておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひ募金へのご協力をお願い致します。

皆様から頂いた募金は、日本YMCA同盟を通じて、ミャンマーの公衆衛生活動、カンボジアのチャイルドケア、タイの児童保護活動、ベトナムの学校建設東エルサレムやギリシャの難民支援活動、アジアの東ティモールの子どもや若者への教育、ネパールの収入を失った人への生活支援、災害支援などに使われます。皆様からのご支援により、1月5日の時点で173,287円の募金が集まりました。

目標額の320,000円まで146,713円となります。引き続き皆様のご支援とご理解、ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。



国際協力募金担当 中村圭一

盛岡YMCAは多くの皆様からの寄付に支えられ、多くの子ども、若者、家族へのプログラムを行っております。これまで盛岡YMCAを支え続けていただいている皆さまに、心より感謝申し上げます。

さてこの度、盛岡市東仙北に本社を構える【やよいリビング】より250,000円の寄付を頂戴いたしました。頂戴いたしました寄付金は、サッカースクールとベストキッズの練習環境整備のため、サッカーゴールやベンチ、マーカーなどの購入に使わせていただきました。YMCA運動にご賛同、ご支援賜りましたこと心より感謝申し上げます。やよいリビング様の詳細につきましては、ぜひホームページをご覧ください。【<https://yayoi-living.jp/>】

続いて、日本宝くじ協会からの助成について報告いたします。2020年度は一般財団法人日本宝くじ協会より、助成物件として集会テント3張と宿泊テント1張を寄贈いただきました。寄贈いただきました集会テントは、YMCAのサッカー大会等で使用させていただいており、宿泊テントは放課後児童クラブの子どもたちの活動に、使用させていただいております。

また、先日会員の皆様にフードバンク岩手を通した、フードドライブの活動へのご協力をさせていただきました。多くの皆様にご賛同いただき、おかず類・麺類・調味料・お菓子類合計で8.56kg分となりました。

皆様から頂きました食品につきましては、12月末にフードバンクへお届けをいたしました。多くのご賛同に心より感謝申し上げます。

先にも述べました通り、YMCAは多くの皆様に支えていただいております。今後も、YMCA運動へのご理解ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

本部事務局長 浅沼慧



2021年 学童スタート

2021年が始まりました!!今年が丑年。ゆったり、のんびりと過ごしていきたい所ですが、年明け初日からぶらひむ・たいむ各校の子ども達は相変わらず元気一杯!!!今年も、雪も多く、子ども達にとっての格好の遊び道具の一つとして、大活躍しています。雪だるまに、かまくら、そり山と、あらゆるものを形作り、どんどん自分達の遊びに変えています。また、室内でも自分達で工夫し、遊ぶ姿が見られます。

遊びは、子ども達のごはんです。成長していく上で、なくてはならない存在です。小学生になると、関わる人や遊びの種類も多様になり、活動範囲が広がります。その様な環境下の遊びを通じて、順番を待つこと、我慢をすること、約束を守ることや平等の意味等を身に付け、協力することや競い合うことを通じて、成長していきます。そして、遊びを通じて、上手にいくことや思い通りにいかない経験を積み重ねていきます。遊びから生

まれる、その様な繰り返しと積み重ねから『生きる力』が溢れる、たくましい人になってほしいと、YMCAでは願っています。

昨年から今年にかけて、コロナウイルス感染対策のため、日々のマスク着用や手洗いうがい、手指の消毒、食事中マスクを外している際には、おしゃべりを我慢する等、子ども達に我慢してもらうことも増えております。遊ぶ時はとことん遊ぶ!そして、その上で、やるべきことはしっかりとやる!!というメリハリを大切にしながら、子ども達が我慢している分以上に、遊びを満喫できる環境作りに努めていきたいと考えています。

保護者の皆様には、日頃よりご理解、ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。今後ともご協力頂くこと、お手数をおかけすることが多々あるかと思いますが、本年も何卒宜しくお願い致します。

盛岡YMCA チャイルドケア事業部統括 小川嘉文



11月野外活動報告

こんにちは、はっちです!私からは、11月29日に、馬っこパーク・いわてで行われた野外活動の報告をさせていただきます。今回は、リーダー10人、スタッフ2人、子ども23人での活動でした。

馬っこパークに着いたらまず、馬小屋のお掃除とえさやりをグループごとにしました。馬小屋のお掃除では、みんなで協力して、一生懸命お馬さんのためにお掃除をしている様子が見られました。えさやりでは、少し怖がっていましたが、他の子からえさのあげかたを教してもらいチャレンジしている子や、好きなお馬さんを見つけ、たくさん声をかけながらえさをあげている子などがいて、たくさん動物と触れ合っていました。

その後は乗馬体験でした。大きなお馬さんに乗るということで、緊張している子もいましたが、最後はお馬さんに「ありがとう!」と声をかけていました。お馬に乗る姿、みんなとてもかっこよかったです。

お昼ご飯は、感染症対策のため、食べているときはおしゃべりしないという約束のもと、ご飯を食べました。顔の動きや手の動きで言いたいことを伝えたり、変な顔をして笑わせたりと、話しが出来ない状況のなか、みんなで楽しむことが出来ました。

午後は、フリータイムでした。お馬やヤギ、ウサギのところでえさをあげて触れ合う子、雪で作品を作っていた子、走り回って遊んでいる子など、広い空間でしたがそれぞれ思い切り楽しい時間を過ごしていました。

今回の活動では、普段触れることのないお馬との触れ合いを通して、子どもたちの優しい表情や、怖がりながらもお馬と触れ合おうという姿勢、触れ合っていく中で動物への愛着が湧いていく様子など、子どもたちのいろいろな姿を見ることが出来ました。今回もとても楽しかったので、次の活動もとても楽しみです。ありがとうございました!

岩手大学3年 佐藤亜美(はっちリーダー)



クリスマス会 ~2020~

例年ならば、盛岡YMCAでも“家族で楽しむファミリークリスマス”や“教会で体験する本格的なクリスマス”など、センターの垣根を超えて一堂に会するクリスマス会を開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響も考慮し、各学童単位でのクリスマス会の開催にシフトチェンジしました。

例年よりかなり小規模な会にはなりましたが、その分、普段の学童メンバーとの濃密な時間を過ごすことに一役買ったのではないのでしょうか。向中野センターの12/23(水)を皮切りに、本町・盛南センターが24日(木)、前潟センターは25日(金)と、まさにクリスマス当日にふさわしい行事になりました。

今回、どのセンターでも、内丸教会の中原眞澄牧師の“クリスマスって??”と称したお話を動画視聴することを共通の内容にし、1年生から6年生まで、お話を全員で聴きました。向中野センターでは、サンタに扮したリーダーが同時に読み聞かせもしてくれ、いつもとはちがう、リーダーの声に聞き入ったそうです。

そうそう!盛岡YMCA内で『クリスマス会キャラバン』なるものを結

成し、ボランティアリーダーも盛り上げ役に加わってもらいました!!
中でも、前潟センターでのリーダーの装いはかなりの気合の入れようだったとかなんとか...!!その他のセンターでも、写真での子どもたちの表情から、楽しそうな雰囲気が伝わってきています。

今年度は、スキーキャンプやその他プログラムも中止や企画変更を余儀なくされた影響で、ボランティアリーダーをはじめ、子どもたち同士も関わるものが減っていたので、今回の会ではリーダーも子どもたち自身も、あらためてお互いが関われる喜びを実感できたのではないかと思います。

『たとえサンタに扮しているのがスタッフだったとしても(全センター共通?)』、『たとえジェスチャークイズの問題を上手く表現できないトナカイさんだったとしても(盛南センター)』、それを見る子どもたちの目がキラキラしていたらそれでイイ!と思えたクリスマス会でした。来年度も、そんな子どもたちと一緒にクリスマスを迎えたい、と思っております。

盛南センタースタッフ 菅原歩



玉ねぎ

絶望のとなりに
だれかが
そっと腰掛けた
絶望は、
となりのひとに聞いた。
「あなたはいったい誰ですか」
となりのひとはほほえんだ
「私の名前は希望です」

アンパンマンで有名なやなせたかしさんの詩だ。国語の授業で先生が朗読してくれた。当時、中学2年生だった僕にはとても新鮮に響いた。

新型コロナウイルスが発生してから1年が経過した。感染は収束するどころかますます拡大している。ワクチンが開発されたというが、その一方でイギリスでは変異種が急速に広がっているというニュースも報道されている。いったい、このような状況はいつまで続くのだろうか？

様々な行動が制限されると、一人になる機会が増えてくる。普段は、相手に向けられている関心が自分へと向けられる。いきおい、見たくない自分が見えてくる。ただでさえ、先の見えない不安の中で日々を過している、ますます気分が暗くなる。

しかし、人類は過去にもっと、困難な状況に何度も遭遇してきた。そうした苦しみや、悲しみ、絶望の中で、先人たちは、他人には絶対に見せない自分の心の奥の奥、あるいは自分さえも知らない心の深層を自分以上にわかって下さる「大いなる何か」を探し求め、そこに慰めと希望を見いだしていったのではないだろうか。それをキリスト教では神様、イスラム教ではアッラー、仏教では仏様と呼んでいるのかも知れない。

カトリックの小説家遠藤周作は、「この大いなる何か」を文学で如何に表せば日本人の心にフィットするか苦心した。なかなかいい表現が見つからない。ある時期は、「サムシンググレート」という言葉を好んで使ったという。しかし、それもしっくりこなかったらしく、晩年の作品「深い河」においてはなんと!!「玉ねぎ」と表現し、登場人物の神父を通してこう語らせて。「神は存在というより、働きます。玉ねぎは愛の働く塊なんです。」

新年が始まった。不安な日々はまだまだ続くことだろう。でも、玉ねぎが支えてくれる。慰めてくれる。一緒に歩いてくれる。僕たちは玉ねぎの懐で安心して苦しんでいけるんだ!!

「ところが主は、『私の恵はあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるだ』と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、私は弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいきます。なぜなら私は、弱いときにこそ強いからです。」

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9～10節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

◎2021年1月8日現在(敬称略)

●維持会員

- 廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、淺沼久久、花田暉、山崎詩織、林間つきみ野教会照井夏輝、光永尚生、釜ヶ澤亮、齊藤優太、魚住恵、accommon、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、石川菜、淺沼恵、淺沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ひろ、滝川佐渡子、戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治、高橋奈菜、工藤悦子、大関靖三、小山憲彦、伊藤信彦、佐々木隆弘、水田賢次、及川茂夫、菊地弘生、水野暢夫、上中優奈、松尾聡子、増田隆鶴、丹谷三代、井上修三、井上優子、井上浩太郎、栗谷川香、中原真澄、宮田康男、永山聖子、宮田伸樹、大賀真理、櫻井大樹、大澤秋太郎、和田賢一、織笠友理子、泰江道代、大澤篤人、伊藤真太郎、杉田未来、山口貴伸、小林茂元、嵯峨力雄、角谷普治、菊地創、小林昭千葉治三、名古屋謙彦、名古屋実和、佐藤洋一、関根伊作

●寄附金

- 花田暉、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代、及川茂夫、小笠原梨香、菊地弘生、大澤篤人、吉田あさな、武田理恵子

『3びきのかわいいオオカミ』

ユージーントリビザス // 文
ヘレン オクセンバリー // 絵
こだま ともこ // 訳
富山房

『3びきのかぶた』というお話を知っていますか？ かぶたの3兄弟が藁や、木、レンガで家をそれぞれ建て、そこに悪いオオカミが現れて... という有名なおとぎ話です。

おとぎ話では悪いオオカミがかぶたに懲らしめられますが、この本はみなさんが知っている話とはまるっきり反対のお話なんです。

このお話の主人公は、ふわふわの毛皮にふさふさのしっぽを持った、かわいい悪いオオカミの3兄弟。育った家を出たオオカミたちは、協力して家を建てることにしました。

親切なカンガルーに貰ったレンガで、素敵な家をつくりま。ところがそこにあらわれたのは、とっても悪いおおぶた。家に入れて貰えないおおぶたは、大きなハンマーでオオカミたちが作った家を壊してしまいました。震え上がったオオカミたちは、もっと丈夫な家を作ることにします。

優しいビーバーに貰ったコンクリートを使ったり、気前のいいサイに貰った鉄板を使ったり。でも、悪い悪いおおぶたは、それもぜんぶ壊してしまいます。困ったオオカミたちは、今まで間違った材料で作ってたんだと話し合いました。さて、オオカミたちは今度は何で家を作ることにしたのでしょうか？ そして、オオカミとぶたはどうなるのでしょうか？

頑なな心は周りも頑なにしますが、柔らかい心は周りの人の心も柔らかくするのもかもしれません。

こんな世の中だからこそ、人との関わりを大切にしたい。そんな暖かくてハッピーな気持ちにさせてくれる本です。



岩手県立図書館 児童サービス担当
富岡 和

表紙の写真から



「盛岡YMCA体育教室のメンバー、リーダーたちから、初笑いを届けます。」

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡YMCA」で検索ください。
ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>
facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>